

朝鮮通信使に関するアンケート調査 について

調査レポート

本調査は、過疎化・高齢化が進む瀬戸内沿岸・島嶼部地域の魅力増進と活性化のため、室町から江戸時代に瀬戸内の港町を巡った「朝鮮通信使」を重要な歴史文化資源と位置づけ、その活用方策を検討するものである。

平成24年度広島大学マネジメント研究センタープロジェクト研究（全15件）の1つとして採択されたもので、調査は、広島大学、広島県、中国運輸局、中国経済連合会、中国地方総合研究センター、NPO法人・NGOひろしま、エネルギー総合研究所で構成する「朝鮮通信使研究会」が実施している。

同研究会は、朝鮮通信使ゆかりの地（下関、上関、下蒲刈、鞆の浦、牛窓）における史跡・施設等の資源活用の現状と課題、ネットワークのあり方などを調査・検討している。本稿では、その一環として実施したアンケート調査結果を中心に紹介する。

1. アンケート調査の目的および方法

（1）調査目的

瀬戸内にある朝鮮通信使ゆかりの史跡・施設等の認知度やゆかりの地を観光する際の観光行動等を把握し、観光資源の問題点や活用方法を探る。

（2）調査要領

①調査方法

（株）日本能率協会総合研究所マーケティング・データ・バンク（MDB）を活用したインターネットによるアンケート調査。

②調査対象

MDB ネットの登録モニターのうち、中四国地域9県および朝鮮通信使の当時の宿泊地が所在する都府県や沿線の県など22都府県の登録モニター。

なお、アンケートの回答時点で、調査対象である登録地と異なる居住地（群馬県、千葉県、沖縄県）のモニターからの回答も含む。

③調査実施期間

2012年10月18日（木）～10月19日（金）。

④回答者数・回答者の属性

回答者は426人。回答者の属性は図表1のとおり。

図表1 性別・年齢・居住地域別の回答者数と構成比

（性別）

	回答者数 (人)	構成比 (%)
男性	211	49.5
女性	215	50.5
合計	426	100.0

（年齢）

	回答者数 (人)	構成比 (%)
20代	108	25.4
30代	109	25.6
40代	97	22.8
50代以上	112	26.3
合計	426	100.0

（居住地域）

	回答者数 (人)	構成比 (%)
関東	190	44.6
中部	71	16.7
近畿	100	23.5
中国	22	5.2
四国	14	3.3
九州・沖縄	29	6.8
合計	426	100.0

注：居住地域の区分は次のとおりである。

関東：栃木県 群馬県 千葉県 東京都 神奈川県
 中部：岐阜県 静岡県 愛知県 三重県
 近畿：滋賀県 京都府 大阪府 兵庫県
 中国：鳥取県 島根県 岡山県 広島県 山口県
 四国：徳島県 香川県 愛媛県 高知県
 九州・沖縄：福岡県 長崎県 沖縄県

2. 調査結果

(1) 韓国について

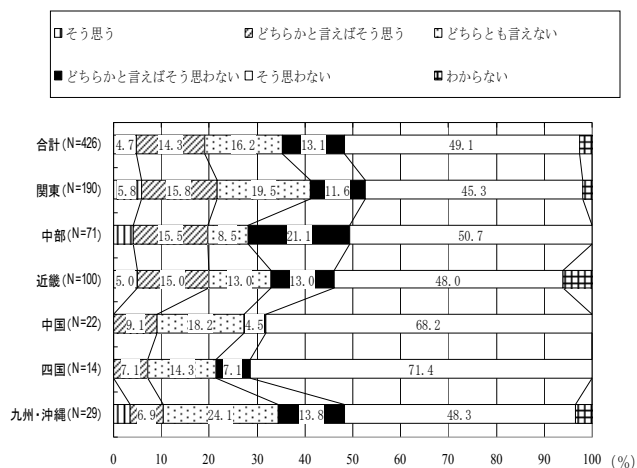
①韓国の歴史、文化、ファッション、芸能等への興味（図表2）

韓国の歴史、文化、ファッション、芸能等への興味があるかについては、全体では「そう思う」あるいは「どちらかと言えばそう思う」の回答割合が20%弱となっている。

居住地域別にみると、関東、中部、近畿で「そう思う」あるいは「どちらかと言えばそう思う」の回答割合が約20%となっているのに対し、中国、四国が10%以下、九州・沖縄が約10%と低くなっている。

また、中国、四国では、「そう思わない」の回答割合が約70%と、韓国の歴史、文化、ファッション、芸能等への興味が薄いことがうかがわれる。

図表2 韓国の歴史、文化、ファッション、芸能等への興味（居住地域別）



②訪問回数（図表3）

訪問回数については、全体では「訪問したことがない」の回答割合が70%となっている。

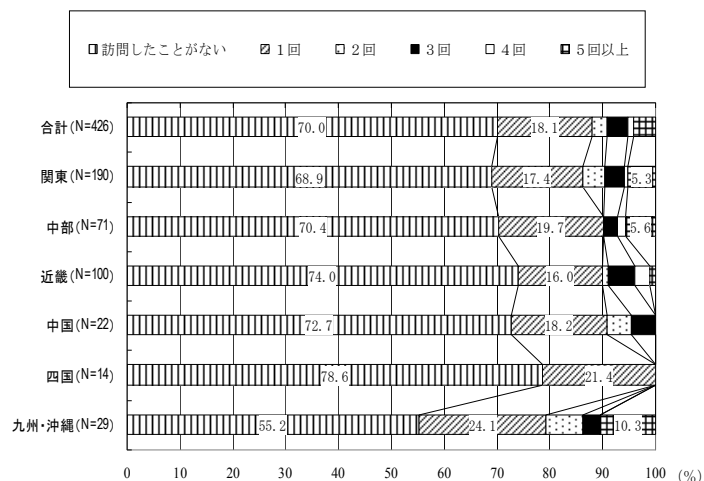
居住地域別にみると、九州・沖縄で半数近くが訪問しており、約10%が「5回以上」と回答している。

③訪問した都市（図表4）

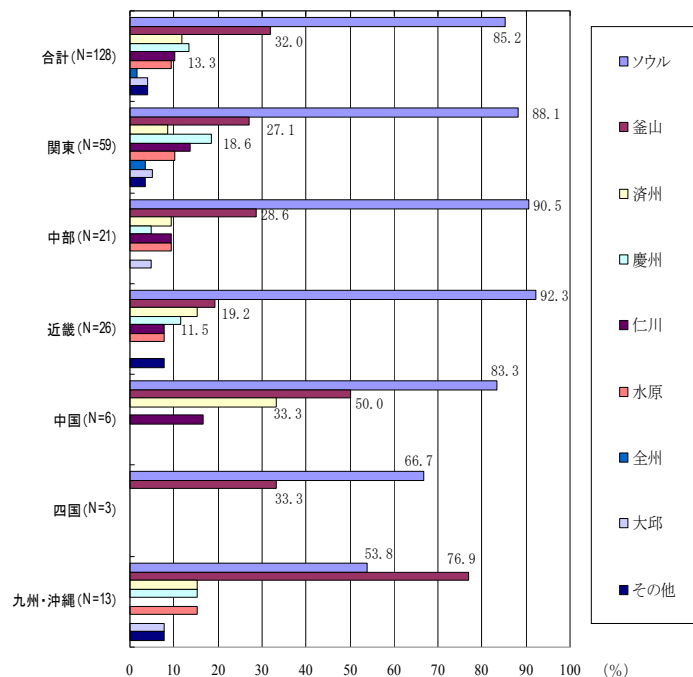
訪問した都市については、ほとんどの人が「ソウル」と回答している。

居住地域別にみると、九州・沖縄で「釜山」の回答割合が70%以上となっている。

図表3 訪問回数（居住地域別）



図表4 訪問した都市（居住地域別）



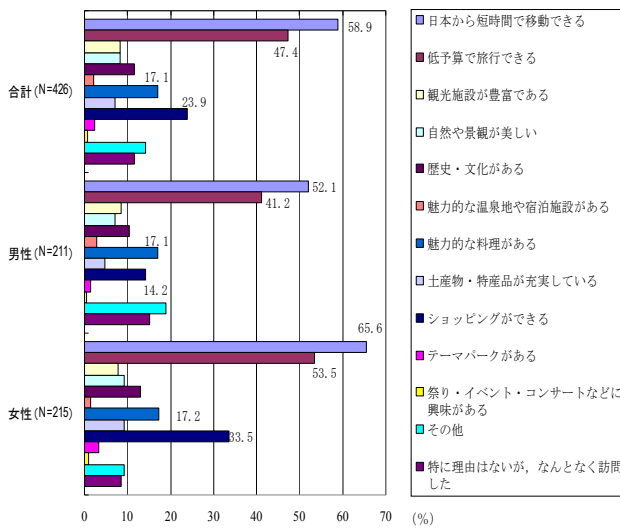
注：複数回答

④訪問した理由・韓国のイメージ（図表5）

訪問した理由・韓国のイメージについては、「日本から短時間で移動できる」、「低予算で旅行できる」の順に回答割合が高くなっているが、女性については、「ショッピングができる」の回答割合も30%を超えている。

訪問した理由のその他については、「仕事」、「社員旅行」、「修学旅行」などの回答があった。

図表 5 訪問した理由・韓国のイメージ (男女別)



注：複数回答

(2) 朝鮮通信使について

① 認知度 (図表 6, 7)

認知度については、全体では「よく知っている」あるいは「名前だけ知っている」の回答割合が30%以上となっているが、男女別では、男性の回答割合が40%以上であるのに対し、女性の回答割合が30%以下と認知度に差が出ている。

韓国の歴史、文化、ファッション、芸能等への興味別では、興味が高い人ほど認知度も高くなっている。

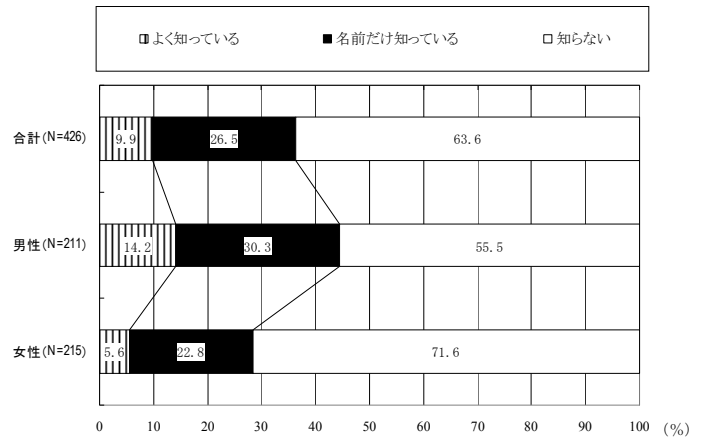
② 朝鮮通信使を何で知ったか (図表 8)

朝鮮通信使を何で知ったかについては、どの年代も「学校での歴史の授業や社会人向け講座」の回答割合が最も高くなっている。

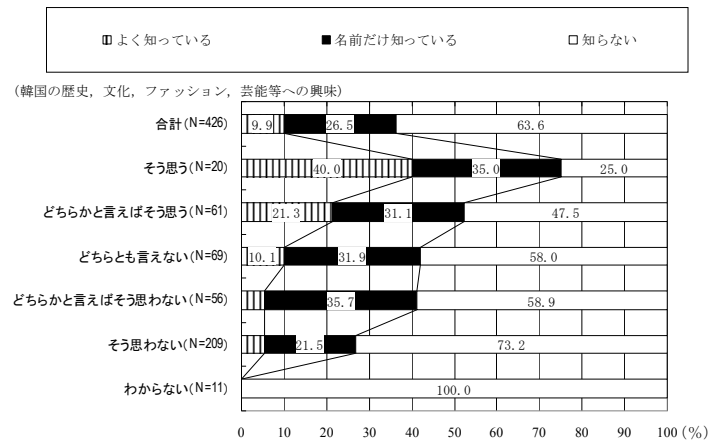
ただ、40代や50代以上では、20代や30代と比較し、「学校での歴史の授業や社会人向け講座」の回答割合がやや低くなっており、一方で「本・雑誌・新聞」や「テレビの歴史番組」の回答割合が高くなっている。

その他の回答については、インターネットで知ったという回答などがあつた。

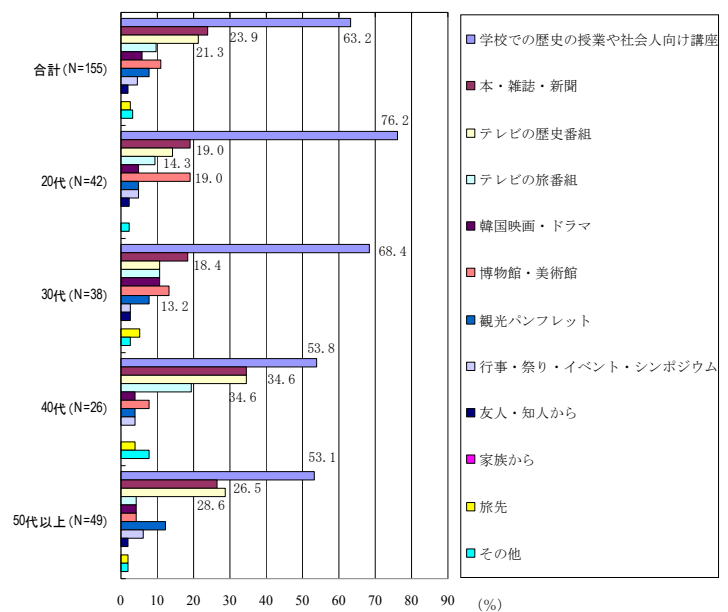
図表 6 認知度 (男女別)



図表 7 認知度 (韓国の歴史、文化、ファッション、芸能等への興味別)



図表 8 朝鮮通信使を何で知ったか (年齢別)

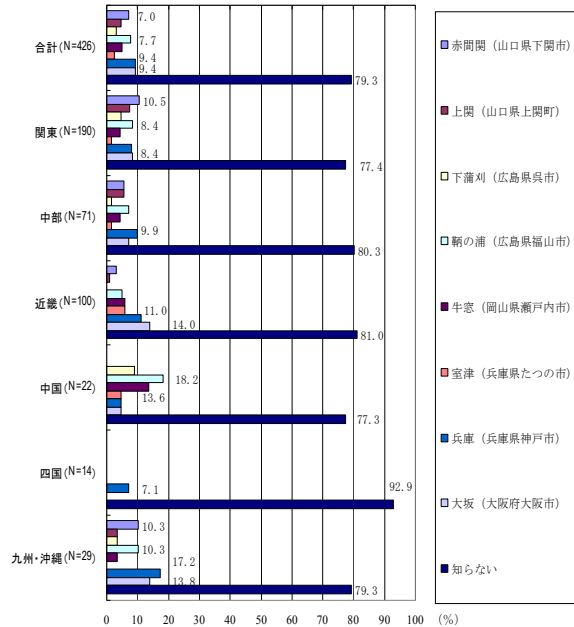


注：複数回答

③寄港した瀬戸内の港町の認知度（図表 9）

寄港した瀬戸内の港町の認知度については、どの地域も「知らない」と回答した人がほとんどである。特に四国は「兵庫」と回答した人が1名だけで、他の人は全員「知らない」と回答している。

図表 9 寄港した瀬戸内の港町の認知度（居住地域別）



注：複数回答

④各種行事や祭りの認知度（図表 10）

朝鮮通信使ゆかりの地など日本各地で開催される再現行列など各種行事や祭りの認知度については、全体では「知らない」と回答した人が約90%とほとんどであるが、韓国の歴史、文化、ファッション、芸能等への興味が高い人については、若干認知度が高くなっている。

（3）瀬戸内にある朝鮮通信使ゆかりの地について

①史跡・施設・芸能・食の認知度（図表 11）

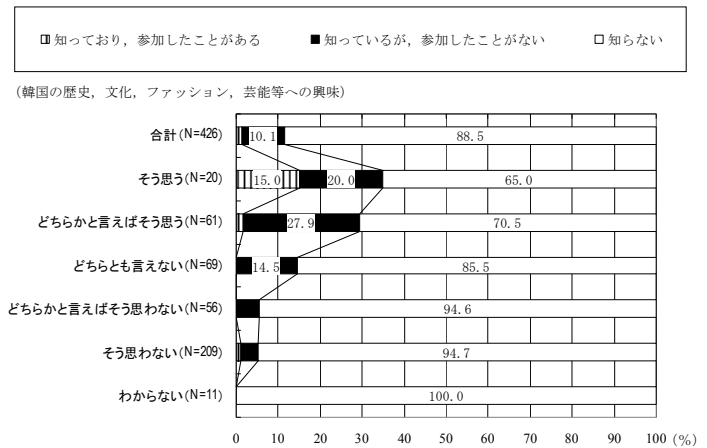
史跡・施設・芸能・食の認知度については、九州・沖縄で認知度がやや高かったものの、「知らない」と回答した人が約90%とほとんどで、最も認知度が高かった「赤間神宮（下関市）」でも回答割合は10%を下回っている。

②訪問や体験をしたことがある史跡・施設・芸能・食（図表 11, 12）

訪問や体験をしたことがある史跡・施設・芸能・食については、「赤間神宮（下関市）」、「長府博物館

（下関市）」の順に回答割合が高くなっているが、「長府博物館（下関市）」については、20代、30代と比較し、40代、50代以上の回答割合が低くなっている。

図表 10 各種行事や祭りの認知度（韓国の歴史、文化、ファッション、芸能等への興味別）



図表 11 史跡・施設・芸能・食の認知度と訪問・体験

史跡・施設等	認知度		訪問・体験		
	回答者数 (人)	構成比 (%)	回答者数 (人)	構成比 (%)	
合計	426	100.0	48	100.0	
下関市	赤間神宮	25	5.9	18	37.5
	引接寺	9	2.1	4	8.3
	長府博物館	10	2.3	9	18.8
	朝鮮通信使行列再現	12	2.8	1	2.1
上関町	御茶屋跡*1	4	0.9	2	4.2
	超専寺	3	0.7	4	8.3
	旧上関番所	4	0.9	5	10.4
呉市 下蒲刈	松濤園 (朝鮮通信使資料館)	7	1.6	2	4.2
	饗応料理 (七五三の膳) *2	4	0.9	2	4.2
	朝鮮通信使再現行列	3	0.7	2	4.2
福山市 鞆の浦	福禅寺 (対潮楼)	6	1.4	3	6.3
	鞆の浦歴史民族博物館	7	1.6	2	4.2
	保命酒	4	0.9	2	4.2
瀬戸内市 牛窓	本蓮寺	4	0.9	1	2.1
	御茶屋跡	4	0.9	0	0.0
	唐子踊*3	5	1.2	1	2.1
その他	0	0.0	0	0.0	
知らない(訪問・体験なし)	378	88.7	16	33.3	

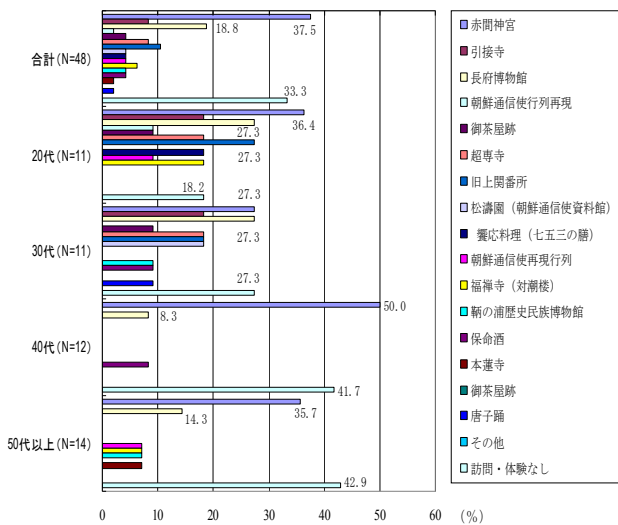
注：複数回答

*1：上位の官人(正使・副使ほか)の接待や宿所とされた迎賓館

*2：上位官人に饗応された儀式膳で、本膳七品、二膳五品、三膳三品が載る

*3：朝鮮風の衣装をまとった二人の男児の舞いで、疫神社の秋祭りに催される

図表 12 訪問や体験をしたことがある
史跡・施設・芸能・食 (年齢別)



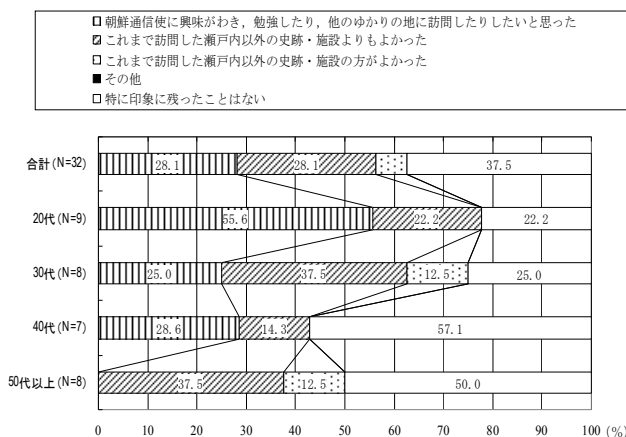
注：複数回答

③史跡・施設・芸能・食を訪問あるいは体験したときの印象・感想 (図表 13)

史跡・施設・芸能・食を訪問あるいは体験したときの印象・感想については、「これまで訪問した瀬戸内以外の史跡・施設の方がよかった」あるいは「特に印象に残ったことはない」と回答した人の割合が40%以上となっている。

ただ、年齢別では、20代の半数以上が「朝鮮通信使に興味をわき、勉強したり、他のゆかりの地に訪問したりしたいと思った」と回答している。

図表 13 史跡・施設・芸能・食を訪問あるいは体験をしたときの印象・感想 (年齢別)



④ゆかりの地を訪問したいと思うか (図表 14, 15, 16, 17)

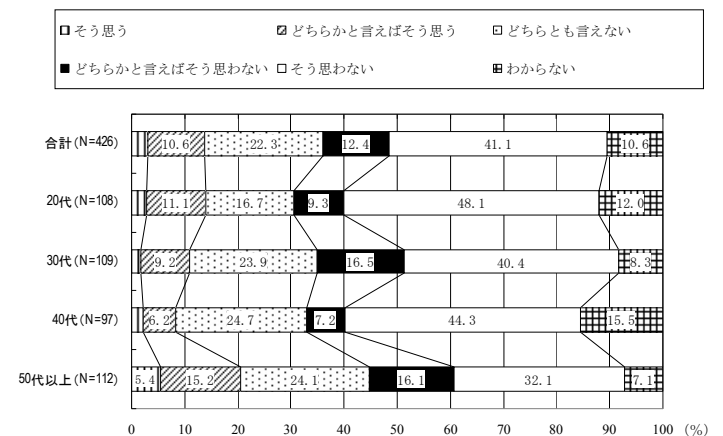
ゆかりの地を訪問したいと思うかについては、「そう思う」あるいは「どちらかと言えばそう思う」と回答した人の割合が15%以下となっている。

年齢別では、50代以上で「そう思う」あるいは「どちらかと言えばそう思う」と回答した人の割合が20%以上と比較的高くなっているのに対して、朝鮮通信使の認知度が低かった40代では、「そう思う」あるいは「どちらかと言えばそう思う」と回答した人の割合が10%以下とかなり低くなっている。

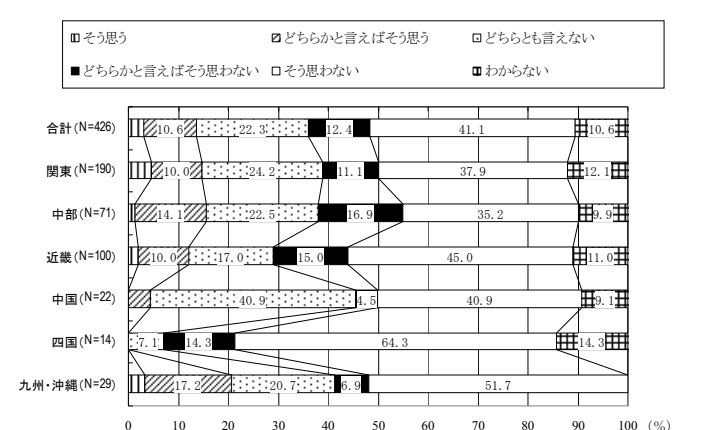
居住地域別では、九州・沖縄で「そう思う」あるいは「どちらかと言えばそう思う」と回答した人の割合が20%以上と比較的高くなっている。

また、韓国の歴史、文化、ファッション、芸能等への興味が高い人や朝鮮通信使の認知度が高い人については、瀬戸内にある朝鮮通信使ゆかりの地への訪問希望者の割合がかなり高くなっている。

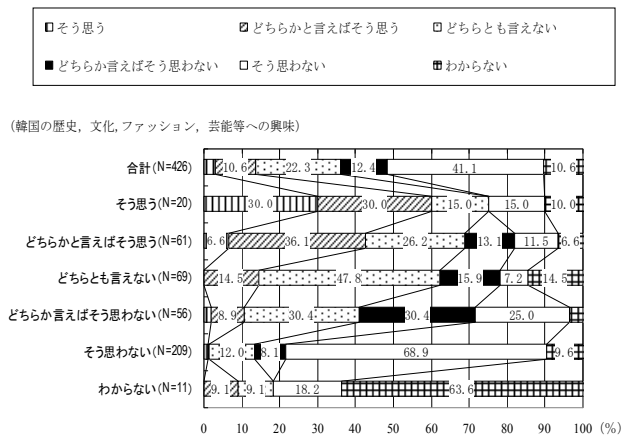
図表 14 ゆかりの地を訪問したいと思うか (年齢別)



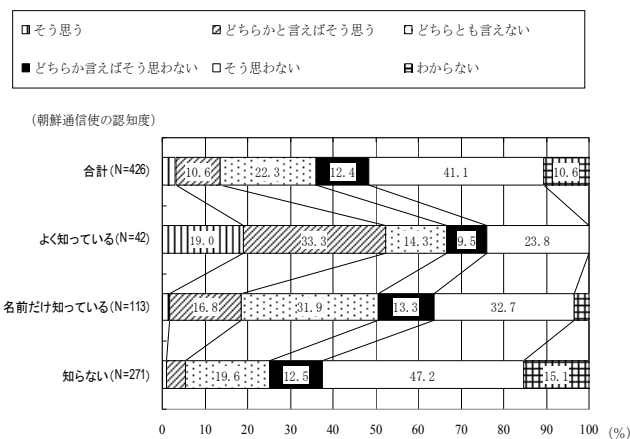
図表 15 ゆかりの地を訪問したいと思うか (居住地域別)



図表 16 ゆかりの地を訪問したいと思うか
(韓国の歴史、文化、ファッション、
芸能等への興味別)



図表 17 ゆかりの地を訪問したいと思うか
(朝鮮通信使の認知度別)



⑤ ゆかりの地を観光する場合の旅行期間 (図表 18)

ゆかりの地を観光する場合の旅行期間については、「1泊2日」、「2泊3日」がいずれも40%以上となっている。

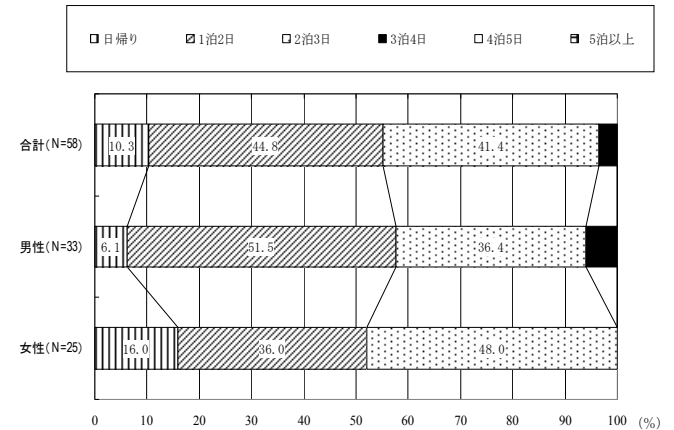
男女別では、女性で「日帰り」の回答割合が男性より高くなっているが、一方で「2泊3日」の回答割合も約50%と高くなっている。

⑥ ゆかりの地を観光する場合の1人あたりの予算 (図表 19)

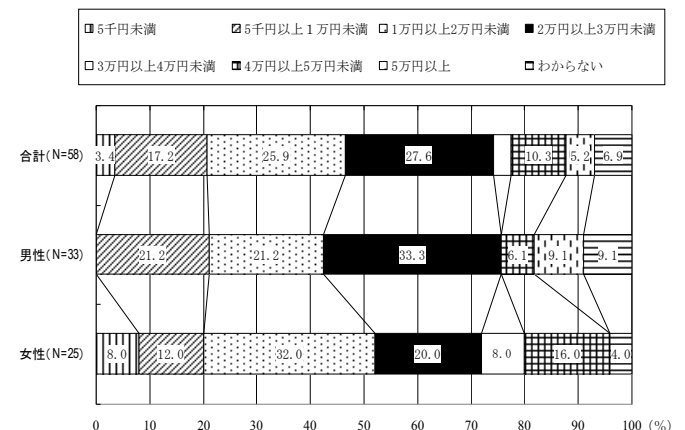
ゆかりの地を観光する場合の1人あたりの予算については、「1万円以上2万円未満」あるいは「2万円以上3万円未満」と回答した人が過半数を占めている。

男女別では、男性で「2万円以上3万円未満」の回答割合が約30%と最も高くなっているのに対し、女性は「1万円以上2万円未満」の回答割合が約30%と最も高くなっている。

図表 18 ゆかりの地を観光する場合の旅行期間 (男女別)



図表 19 ゆかりの地を観光する場合の1人あたりの予算 (男女別)

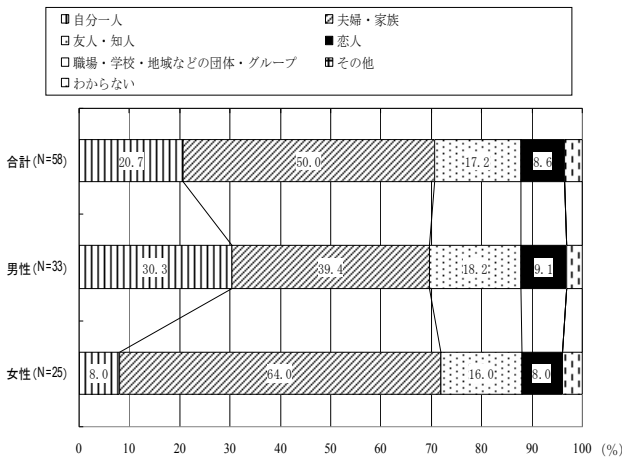


⑦ ゆかりの地を観光する場合の旅行相手 (図表 20)

ゆかりの地を観光する場合の旅行相手については、半数が「夫婦・家族」と回答、次いで「自分一人」、「友人・知人」の順に回答割合が高くなっている。

男女別では、男性で「自分一人」の回答割合が約30%、「夫婦・家族」の回答割合が約40%となっているのに対し、女性は「自分一人」の回答割合が10%を下回り、「夫婦・家族」の回答割合が60%以上となっている。

図表 20 ゆかりの地を観光する場合の旅行相手
(男女別)

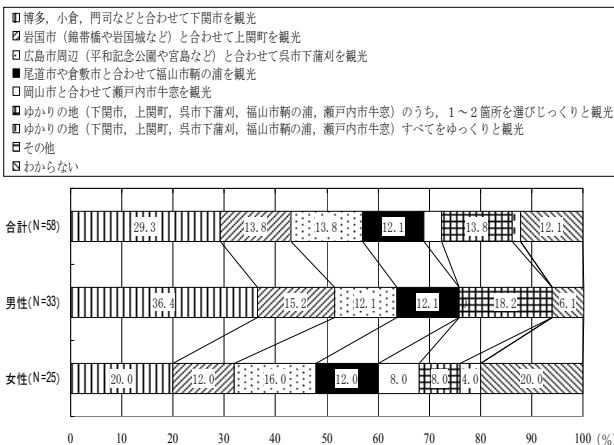


⑧ ゆかりの地を観光する場合の観光プラン (図表 21)

ゆかりの地を観光する場合の観光プランについては、「博多、小倉、門司などと合わせて下関市を観光」の回答割合が約 30%と最も高くなっている。

男女別では、男性で「ゆかりの地（下関市、上関町、呉市下蒲刈、福山市鞆の浦、瀬戸内市牛窓）のうち、1～2箇所を選びじっくりと観光」の回答割合が 20%弱と比較的高くなっている。

図表 21 ゆかりの地を観光する場合の観光プラン
(男女別)

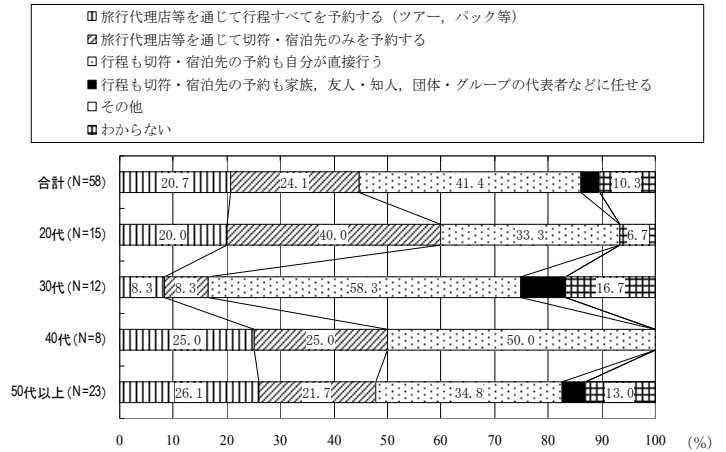


⑨ ゆかりの地を観光する場合の旅行の手配方法 (図表 22)

ゆかりの地を観光する場合の旅行の手配方法については、「行程も切符・宿泊先の予約も自分が直接行う」の回答割合が約 40%と最も高くなっている。

特に 30 代では「行程も切符・宿泊先の予約も自分が直接行う」の回答割合は約 60%とかなり高くなっている。

図表 22 ゆかりの地を観光する場合の旅行の手配方法 (年齢別)



(4) 朝鮮通信使に関する意見・要望・感想

「興味がない」という回答が多かったが、一方で、「特に興味はなかったが、このアンケートに答えてちょっと興味わいてきた」、「一度、訪れたいと思う」、「知らないことが多いので、もっと情報を発信して欲しい」など朝鮮通信使に関心を示した回答者もいた。

(5) 瀬戸内の観光・観光資源について

① 瀬戸内を観光する際に、取り組んでほしいことや充実してほしいこと (図表 23)

瀬戸内を観光する際に、取り組んでほしいことや充実してほしいことについては、「新聞、テレビ、タウン誌、旅行情報誌などによる情報発信」の回答割合が 40%以上と最も高く、次いで「自治体や観光関係団体からのパンフレットやインターネットホームページ等による情報発信」と「郷土料理・伝統料理などの提供」の回答割合が高くなっている。

男女別では男性で「新聞、テレビ、タウン誌、旅行情報誌などによる情報発信」や「自治体や観光関係団体からのパンフレットやインターネットホームページ等による情報発信」のほかに「各種イベントの開催」の回答割合が約 40%と高くなっている。

一方、女性では、過半数が「郷土料理・伝統料理などの提供」と回答している。

②瀬戸内の観光資源に関する意見・要望・感想

自然や海産物に対して高い評価をしている人が多かった。一方で、「全国的な知名度があまりない」、「観光資源を詳しく知らない」、「強烈的な魅力がない」、「遠いので関係ない」といった意見もあった。

3. まとめ

韓国の歴史、文化、ファッション、芸能等への興味は薄く、韓国へ訪問したことがない人の割合も70%となっている。訪問先は「ソウル」がほとんどで、次いで「釜山」の回答割合も高くなっているものの、その他の都市に訪問した人の割合は低かった。

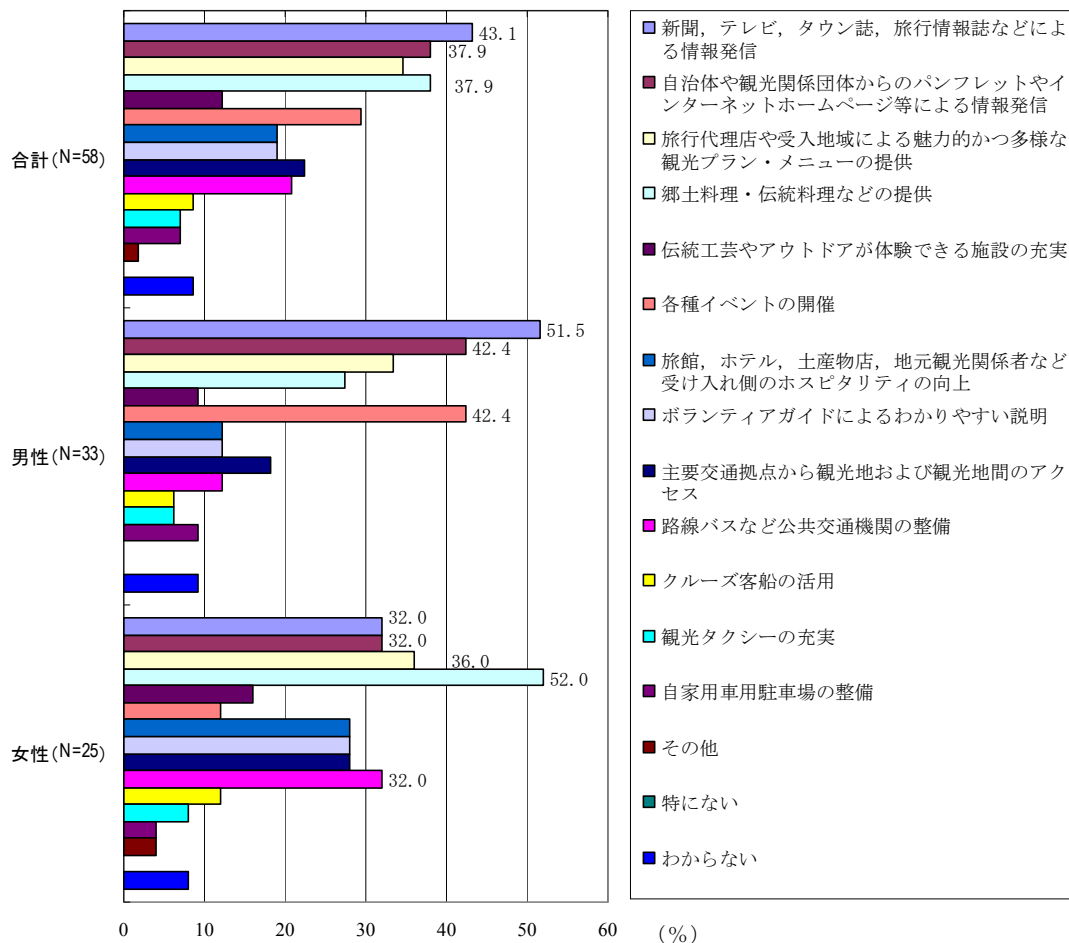
朝鮮通信使については、「名前だけを知っている」も含めると30%以上が知っており、認知度は必ずしも低いとはいえない。

一方、朝鮮通信使の寄港した瀬戸内の港町の認知度はかなり低く、瀬戸内にある朝鮮通信使ゆかりの史跡・施設・芸能・食の認知度については、ほとんどの人が「知らない」と回答している。

また、韓国の歴史、文化、ファッション、芸能等への興味が高い人や朝鮮通信使をよく知っている人以外では、朝鮮通信使ゆかりの地を訪問したいと回答した人は少なく、朝鮮通信使に関する意見・要望・感想についても、「興味がない」、「関心がない」という回答が多かった。

このように、アンケート調査の結果からは、朝鮮通信使ゆかりの史跡・施設等の認知度の低さもさることながら、韓国の歴史、文化、ファッション、芸能等への興味自体が薄いこともあり、現時点では朝鮮通信使を重要な歴史文化資源と位置づけ、観光客誘致や交流人口増加に活用することには結びついて

図表 23 瀬戸内を観光する際に、取り組んでほしいことや充実してほしいこと（男女別）



注：複数回答

いない。

しかし、認知度は、国内外への情報発信・PR などにより向上させることができる。朝鮮通信使ゆかりの地で現在行われている再現行列などのイベントや史跡・施設・芸能・食などを組み合わせることにより、観光客数を増加させる余地もあると考えられる。

また、瀬戸内にある朝鮮通信使ゆかりの地が連携することにより、今後、歴史ファンのみならず地元住民の関心が向上していくことが重要になってくると思われる。

(参考1) 朝鮮通信使の概要

1. 朝鮮通信使とは

「通信」とは、信(よしみ)を通(かよ)わす、という意味であり、「朝鮮通信使」は外交使節として相互に国書を交換し、友好関係を保つために朝鮮王朝から日本に派遣された。

朝鮮通信使といえば華やかな行列に代表される江戸時代の往来が有名だが、それ以前にも名称は異なるが使節の来訪は行われていた。

2. 朝鮮通信使の歴史

室町時代には、当初は朝鮮半島沿岸を襲う倭寇の取締り要請が主目的であったが、後に足利将軍家の慶弔などの友好目的に変化していく。

朝鮮出兵を行った豊臣秀吉の時代にも、出兵の前後に日本国情探索の目的で2度の通信使が派遣されている。

徳川幕府成立後、家康は秀吉の出兵により断絶していた朝鮮王朝との国交回復に取り組む。この時、徳川幕府の代理として、以前から朝鮮との関係が深く、現在の釜山に居留地を有し、貿易を許可されていた対馬藩が朝鮮王朝との仲介を行った。

こうして、慶長12(1607)年、二代・秀忠の時に江戸時代初めての使節が来日し、国交回復が行われ、以後、文化8(1811)年までの約200年の間に12回の来日があった。なお、最後の回は対馬止まりであった。

3. 朝鮮通信使使節団

朝鮮通信使は、国書交換の総責任者である正使、その補佐役の副使、記録などを行う従事官の三使のほか、一流の文章家・漢詩家・書家・画家・医師・音楽家・馬術家などで構成される文化使節団でもあった。江戸時代後半には、民間人も含めた文化交流が各地で繰り広げられることになる。

通信使一行は400~500名が6隻の船団(うち3隻は貨物用)で来日し、日本国内に入ると、対馬藩や関係各藩の護衛などに先導され、赤間関(下関)、上関、蒲刈、鞆の浦、牛窓、室津、兵庫に停泊の後、大坂に入った。通信使船を大坂に滞留させ、操船関係者(約100名)を除いて、一行は陸路を江戸に向かった。三使が乗る輿を担いだり、荷物の運搬や警固などを行う日本人を加えると、行列の総勢は大きく膨れ上がった。この行列を見物することが、当時の庶民の大きな楽しみであったという。

4. 現代に再現される通信使行列

現在、朝鮮通信使ゆかりの全国各地では、時期や規模は異なるものの、さまざまなイベントに合わせて通信使の再現行列が行われている。これらの行列には韓国からの参加者もある。

また、韓国・釜山においても2002年のサッカーワールドカップの共同開催を機に毎年5月に再現パレードを実施しており、日本からの参加者も多い。

(参考2) 朝鮮通信使往復略図



朝鮮通信使船(復元模型)/御馳走一番館蔵(下蒲刈町)
 朝鮮通信使の船団は、大船2隻、中船2隻、小船2隻の6隻で構成され、大船2隻には正使と副使、中船1隻には従事官がそれぞれ分乗し、あとの中船1隻と小船2隻には主に貨物を搭載した。船首には航海の安全を祈るために鬼の顔が、船室には梅、松、ボタン等四季の花木が描かれ、華やかであった。

資料：中国運輸局ビジットジャパン事業パンフレット

「海を渡った朝鮮の文化歴史 400年 美しい多島海、瀬戸で再び出会う時間旅行～私は朝鮮通信使～」

経営調査担当 小早川 隆
 小出 修司